

仙元山コース(三浦アルプス周辺)の紹介

仙元山コースの概要

葉山の森戸川流域は、手付かずの照葉樹の原生林が残された貴重な場所だといわれています。特に、長柄から森戸川沿いの大山林道から入る葉山と逗子に跨る源流地帯は、大山(桜山)から乳頭山までの、東京湾の眺望が素晴らしい分水嶺の急峻な尾根を背景にして、乳頭山から西へ大山林道の終点まで伸びる中尾根と呼ぶ痩せ尾根で南北に分断された源流があり、北谷、南谷と呼ばれ、外周には、150mを越える急峻な山々が連なって、複雑な峡谷を形成しています。森戸川の南稜の尾根には、地形図には書き込まれていない起伏の多い細い山道がうねうねと続き、時々峠越えの昔の山道が交差し、谷川や部落に出る山道が分岐し、更に、仙道や巻き道が加わり、道標がないので、仙元山に迷わずに到着するのは困難です。一人がやっと通れる様な森の中の細い道なので、航空写真で識別できず、今後も地形図には書き込まれないでしょう。昔の主要山道を書き込んだ地図もあるが、今は通れない所や間違いが多いので最近の1万分の1の地形図ではこれらの多くが書き込まれていません。

道標を付けても、やがてなくなります。殆どが私有地のためということですが、必ずしも所有者が狭量だとはいえません。不心得者達が気軽に入ると、山が荒らされ、また、道が良くなるとハイカーが増えて、自然が損なわれます。現に、以前に取れたヌカゴは、荒っぽいヤマイモ掘りで皆無になり、ヤマブキやホタルカズラは残っているが、散在していたヤマユリやギボウシは、球根泥棒にとられて、今では危険な斜面に残っているだけです。急斜面のサンショウの実や、頭上のオオシマツバキは変わらないが、マテバシイの並木道のシイの実の絨毯は台湾リスに食べられ、今はありません。山桜の巨木の並木は50年と言われる寿命に、台風の被害も加わって、昔の面影はありません、途中のピークの蝟桜の巨木も昔の勢いはありません。山桜は炭焼きによる世代交代がなくなると、次第に消える運命なのかもしれません。

なお、仙元山ハイキングコースというのは、森戸川流域の葉山側にある、山桜の美しい尾根道と、眺望の素晴らしい仙元山が売りの、風早橋～実教寺間の整備された遊歩道です。対して、森戸川流域の逗子側には、鷹取山の景色と、大山(桜山)の桜下の散策と、二子山の眺望を売りにした、二子山ハイキングコースがあります。

さて、ここで仙元山コースというのは、この逗子側のハイキングコースから分岐して、葉山側のハイキングコースの仙元山を目指す森戸川流域の様々なコースの総称ですが、単に仙元山コースという場合は、乳頭山から森戸川南稜ルートを(迷わず)踏破して、仙元山に至るコースのことです。乳頭山から中尾根を通過して、連絡尾根から南稜ルートに合流して仙元山に向かうのも面白い仙元山コースです。最短コースは、二子山ハイキングコースから二子山に登らず、連絡尾根に入るルートです。

なお、島山コースといえば、乳頭山から島山を経て、大楠山又は十三峠に行くコースですが、通常は仙元山からのコースです。最近のインターネットでは、この荒れた山道の南稜ルートを三浦アルプスと呼んでいます。

【京急神武寺駅から入る】

歩いて東逗子駅に出る。元気なら、トンネルを通らず**神武寺**(トイレあり)に登り山越えるのがよい。東逗子からは、二子山ハイキングコースに入る。

神武寺からは、神武寺・鷹取山ハイキングコースを通り**鷹鳥山**(トイレあり)の先から沼間方面に下り、**逗子グリーンヒル**(沼間5丁目住宅街)の沼間大山公園から入るのも面白い。

神武寺駅では、裏通りがよいが、バス通りを左に歩けば道に迷うことは無い。



神武寺・鷹取山ハイキングコースの概要

神武寺へは、鷹取山登山口バス停から、逗子中学校の前(トイレあり)を通り、老人ホームせせらぎの前から登る。

鷹取山ハイキングコースは、鎖があつたり、岩場があつたりして、面白く、道もよく整備されているので、子連れに最適の快適なハイキングコースです。帰りは、バスで京急追浜駅へ出るか、京急田浦へ歩いて出るか、沼間三丁目に出て東逗子まで歩いて戻る。

なお、このコースだけでは物足りないハイカーは、続いて、二子山ハイキングコースまたは、仙元山コースに入る。

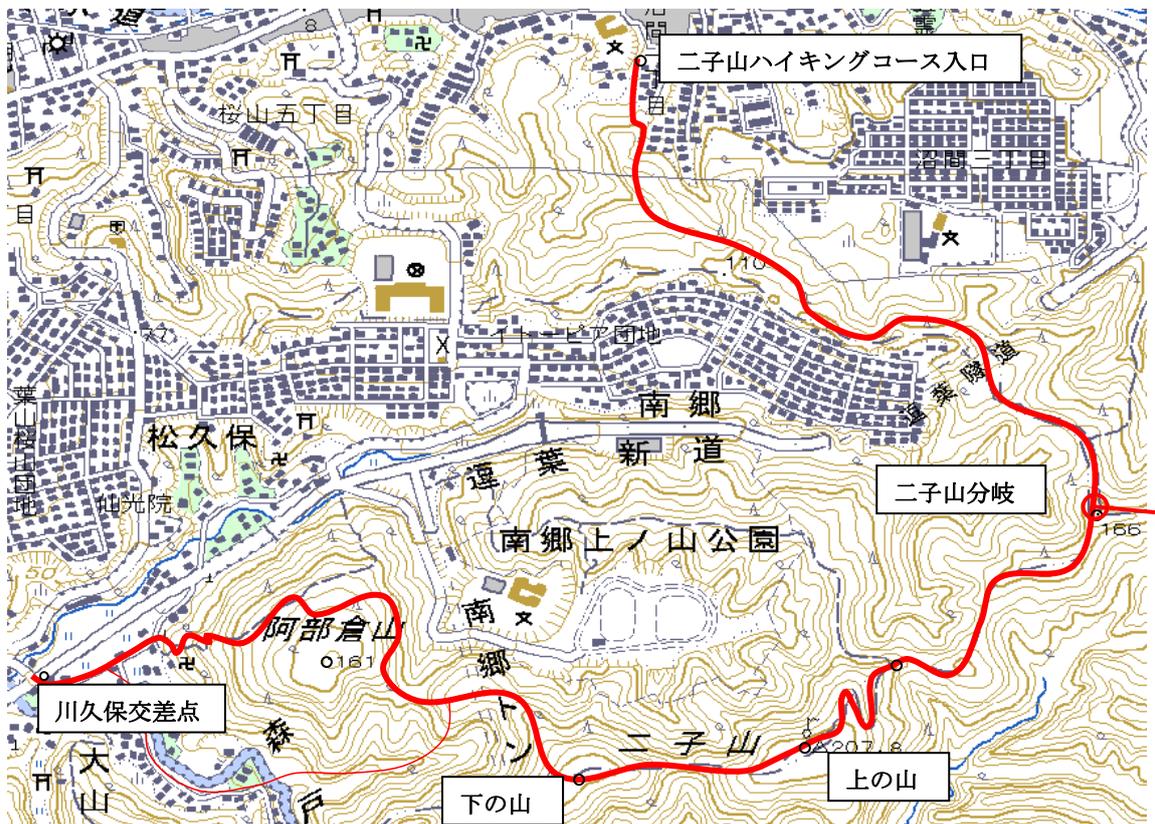
鷹取山ハイキングコースから仙元山コースに入るルートは、以前は、沼間6丁目を通る鉄塔保守の素敵な山道ルートがあつたが、横横線開通後は通れなくなったので、今は、一旦沼間3丁目を下りて、鉄道に沿って東逗子方向とは逆の横須賀方面に少し行ってJRの陸橋を渡り、更に道路(信号)を横切って、逗子インターの近くから、沼間5丁目の逗子グリーンヒル住宅に登り、沼間大山公園から山に入る。勿論この間の

順路は感を働かすしかない。また、一時期この公園からは笹竹で通れず、奥のツバキ公園から入っていたが、今は逆にツバキ公園からは入れず、元の公園からのルートが整備されている。従って、間違った地図もあるので要注意である。前記の昔の山道ルートも再確認する必要がある。

【JR東逗子駅から入る】

東逗子駅からは、沼間小学校の左手を回って、横にお地藏さんが居る二子山自然遊歩道入り口から住宅の裏道を通り二子山ハイキングコースに入る。杉林を登り、沼間1丁目分岐を過ぎて、桜山中央公園への分岐を直進すると、イトーピア葉山団地の上の尾根道に出る。平坦な山腹の道を、木の間がくれに鷹取山の眺望を見ながら進み、沼間中学校分岐、沼間3丁目分岐、きずなの森を通り越して、間もなく二子山順路の看板のある二子山分岐に着く。右に進むと春先には山桜の美しい平坦な尾根道を通して二子山に至る。

二子山ハイキングコースの概要



鷹取山の景観と、大山(桜山)の山桜の下の散策と、二子山の眺望が売り物の、道標を整備しただけの、森戸川流域の逗子側を歩くハイキングコースである。このコースは平坦な道が多いが、整備されていない狭い道なので、雨の後はぬかるんで歩きにくい所が多い。きずなの森の工事は、休憩所を作る予定だったが、笹竹が刈り込まれただけで中断された様子に見える。森戸川流域の自然保護の観点から、おそらく、人が入りやすくなるような休憩所や、詳しいガイド標識などは作らないほうが良いという方

針になったのではないかと思います。

この地域が放置されているもう一つの理由は、葉山、逗子、横須賀の境界が入り組んだ地域で、勝手には出来ないためだと思う。

二子山には展望台があるがトイレは無い。この先は、下の山→(阿部倉山→)長柄→川久保信号→長柄橋、と進みバスで逗子 or 新逗子に戻るのがよいと思うが、車で南郷上の山公園に来た人の登山する軽装のハイカーが多く、下の山まで行って急坂の荒れ道に懲りて引き返す人が殆どである。東逗子から来た普通のハイカーは、下の山から引き返して、森戸川に下り、大山林道を長柄にでる。

なお、森戸川流域の通なら、下の山→長柄→アンテナ山→仙元山、または、大山林道→長尾根→仙元山、と最後を仙元山で収めることもできる。

【馬頭観音から乳頭山へ】



二子山方面に向かわずに直進して、直ぐに合流する沼間 5 丁目からの三叉路を右に、谷間を右に見て進み、次の三叉路も右にと程なく馬頭観音の三叉路に着く。右に下るとリスの谷に下りていくが、左に進み、二つ前の三叉路を左に取った道が合流する。このバイパスがあるので、馬頭観音を通らないこともある。暫く山腹を進むと右に木戸を通して登る道がある。左の細い山腹の単調な道を行くと、やがて右に鉄塔がある所で、やや広い道に出会う。この道を左に進むと京浜田浦駅方面に向かうのが、白赤稲荷→田裏大作→田浦梅林のルートであるが、右に進むと、右手から木戸がある道が合流してくる。

この木戸間の木戸道を通ると、二子山に次ぐ森戸川流域の見晴らしが良い鉄塔のあるピークを通る。なぜ木戸を作ったのか理解できない。本来の道はこの木戸道だということは一目で判る。ぬかるみの無い快適な道なので、知る人は木戸の横をすり抜けて、木戸道を通る…(嘗て、道に迷って日が暮れた時に先導してくれたのも木戸道だった)。

久しぶりの今回は、木戸の擦り抜け防止の針金を嚴重にして、「ここは私有地なので、通行をお断りします」と書いた立派な看板が取り付けられてあり、これにより、通れない区間は僅かの間に過ぎないと思うと、持ち主の狭量さ加減を感じざるをえない。

白赤稻荷を通る田浦梅林ルート

先の鉄塔から出て突き当たったやや広い道を左に暫く進むと右に**田浦大作**に下りて行く道が分岐する。この道を下りて、**白赤稻荷**と畑のある台地の傍を通過して田裏大作の川沿いの道に出て、暫く下ると、右手に**田浦梅林に上る立派な階段**がある。後に通る尾根道の分岐から直接下りてゆくよりも、こちらを回って梅林に行く方が遠いが**急坂下り**が無くてよいという人もいる。

先の分岐を田浦大作に下りないで、直進していくのが**以前の鉄塔保守ルート**であるが、途中で通行止めや工事中などがあり、よく分からない道になっていた。鷹取山のほうからは、こちらへ出られないので、どうやら今は田浦の横須賀・逗子道路に出るだけの道になっていると思うが、確認が必要である。

馬頭観音から栗坪に抜ける昔の想定ルート

馬頭観音の所は急角度で右折するところを、うっかり直進すると北谷の**リスの谷**に下りてしまう。谷でぶつかる三叉路を右に少し行った次の三叉路を左に進むと**北谷**の本流を渡る朽ちかけた**丸木橋**がある。ここを渡り、道なりに進んで登ると中尾根の**南中峠**に出る。峠を支流に沿って下ると**南谷**に出る。やや危険な右岸を注意して少し下ると左手がやや広いところがあり、そこで橋は無いが、川を渡る道がある。昔はちゃんとした道だったと思える道跡をたどって、右斜面を登ると、途絶えかけた笹藪からいきなり南稜コースの**栗坪分岐**からやや仙元山方向に進んだ所に合流する。

乳頭山へは、左に進み程なく田浦大作に下りる細い道を左下に見て直進すると、右手が**森戸川の北谷の源流**の緩斜面の谷になる。鉄塔のある小高いピークを右に巻いて、突き当たりの三叉路を、**鉄塔**を背にして右に進むと、程なくやや危険な**S字の急坂**を上り、横須賀と逗子の境界を通る**尾根道**に出る。新たな鉄塔を背に起伏の激しい**眺望のよい尾根道**を進む。横須賀市の**境界石**を過ぎ**田浦緑地分岐**を過ぎて、中尾根から乳頭山への**鉄塔保守道**に出て左に上り**乳頭山**に至る。

乳頭山を下り、**畠山コースの分岐**を直進し、もう一方の乳頭のピークを超えて、次の**鉄塔**のピークには登らず右に巻く。山腹が終わった所にある、迷うのを楽しみにしている人が居るのではないかと思う様に、道標がなくなる三叉路を右に曲る。道なりに迷って進むと**上山口小学校**に出てしまう。迷わなければ程なく**34号34番(見よ見よ)鉄塔**に着く。

この先、仙元山ハイキングコースに出るまでは鉄塔がないので鉄塔保守のために道を補修する必要が無い。従って、人が通らないと**荒れ放題の細い山道**になる。立派な道

標を付けても直ぐに取り除かれる。また分り易い道標や鉄塔の様な目印がないので迷っても判らない。更に、迷う道の方が良い道になるので厄介である。暫く、人が通らなかったと思えるときや台風の後などは、刈り込み挟みや、鋸などを持ってゆかないと、難渋する。

【森戸川南稜ルート(三浦アルプス)】

鉄塔から下り、蝟桜のピーク(幹が蝟の足の様に多数出た山桜がある)から、巨大な老木の山桜並木を経て、迷うのが当然のような栗坪分岐で直進すると昔の山越えの主要路だったと思えるが今は使われていない道に迷い込むので、急角度で右に曲り、前方にこれから通る三つのピークを正面に見る悪路の急斜面を横に進み、篠竹で殆ど消えかけた分りにくい(リボンが結んであった)昔の谷へ下りる道の分岐を直進して、篠竹の急坂を下り、次のピークの三叉路を迷って枯れ枝が置いてある筈の右に進むとやがて道が消えるので、左に進み、次のピークの冠の分岐も左に取る。枯れ枝が置いてある筈の右方向は危険な道で、荒れた危険な急斜面から南谷の枯れた支流に出る。次のピークの手前で、左手に下りてゆく道がある。多分新沢に下りると思うが通ったことはない。勿論地図には無い。次のピークには狩猟禁止区域の看板がある小さな広場で、二子山が目前に見える。ここを下ると、途中で連絡尾根の頭と呼ぶややなだらかな所があり、右に下ると北谷と南谷が合流する森戸川沿いの大山林道の終点の広場である。

連絡尾根の頭から、次のピークに続いて、続くピークには三峰分岐があるが、皆なが左の巻き道を通るのでピークへの道が荒れ放題で通れなくなり、巻き終わったところから戻る様に右のやっと通れる急坂を登ってピークで左折して三峰ルートに入る。三峰の尾根道は快適だったが森戸川へ下りる所の急坂が当ても厳しかったので、いま通れるかどうか不明である。続くピークには西尾根の分岐があるが、西尾根に行ったことは無い(多分西尾根から、三峰を通過して、長柄にでる昔のルートがあったと思われる)。この先のピークのどんぐり山(巨大なマテバシイの並木があり、以前は足元が危ないほどどんぐりがびっしりと落ちていたが今は、台湾リスにすっかり食べられて、皮しか落ちてない)を越えると、右に登ると迷って森戸川に下りるが、この道は結構危険な悪路であるから、森戸川へ下りるならこの先の長尾根を通る方が良い。更に少し行って直進すると通れなくなる道に迷い込む、逆行なら迷わないが、このよく迷う場所を経て観音塚(千手観音、と馬頭観音の二つの石碑がある)のピークに至る。此処で、左に下りると葉山一式のバス停に出る。直進して、下って登った所に長尾根を通過して森戸川に至る三叉路があり、その先で仙元山ハイキングコースに合流する。ただし、合流点をうっかり直進すると、仙元山と逆方向の実教寺に下りてしまう。今では、この合流点には、仙元山方向への近道が成長してい

る。この先は、葉山クリーンセンターの**焼却場**方面へ下りる道と、右上に**アンテナ山**を経て**長柄**に出る道の分岐があるが、いずれも、広い立派な道なりに進みむと迷わず**仙元山**に到着する。

仙元山ハイキングコース

なお、仙元山コースを仙元山ハイキングコースと混同しないこと。仙元山ハイキングコースは、森戸川流域の葉山側の山桜の美しい尾根道と景観の素晴らしい仙元山の整備を契機に作られた風早橋～実教寺間の立派な遊歩道のことで



【長柄トンネルの山越え】

以上を迷わず踏破して、物足りないときは、旧 1 万分の 1 の地形図の約 1 時間の長柄トンネルを通らない山越えルートで新逗子駅に出るとよい。腹が減っていたら、風早橋バス停の前に有名な(?) 鉄板焼き屋がある。

仙元山から近道の階段を下りて、**風早橋**バス停をやり過ごし、約 500m 行ったところで左折して**森戸川を渡り**、約 100m 先の三叉路を右折し、100m 先を左折して突き当たりの右手の山道の急坂から、途中の三叉路も登ると、立派な**浅間神社の石碑**に着く。裏手の悪路を途中の分岐(左に下るとお墓を通り古い民家の裏庭に出る)も直進して**廃墟の石垣**に着く、石垣の下を過ぎ、昔を偲ぶ道を登り、

荒れた山道を尾根伝いに進むと、建築違反警告が貼られた人の住まない家に着く。この辺りは、歩き始めた頃は、山芋が沢山あり、酒のお摘みにできる程度のヌカゴが取れたが、やがて、掘った穴を放置する不届き者達の仕業で山芋がすっかり取られたのは仙元山コースと同じである。さて、その先も下らず、尾根沿いに荒れた道を進むと小さな畑があり、更に進むと、**峠の十字路**に出会う。この峠越えの道は、長柄から逗子海岸の海水浴に行く子供が通っていたと想像できる。また、建築違反の家からこの十字路の間は、台風による杉の倒木が放置されたとすれば、今は通行できないかもしれない。更に尾根道を進み、低いピークを肥えて急坂を登ると、六台御前の墓や蘆花記念公園から桜山展望台、長柄古墳群を通る、“**ふれあいの小道**”と呼ばれる散歩道に出る。富士山の眺めが良い**展望台**のある**長柄 2 号古墳**のピークを経て、ふれあいの小道を少し戻ったところから桜山 7 丁目方面に下りて、**田越橋**を渡って**新逗子駅**に至る。

最新の平成 14 年版の国土地理院の 1 万分の 1 地形図では、昭和 61 年版(初版)に書き込まれていた仙元山ハイキングコースと二子山ハイキングコース以外の山道は殆ど省かれている。ふれあいの小道もなく、以上の山越え道などは、いっさい書き込まれていない。また、2 万 5 千分の 1 の地形図の山道の書き込みはもともと不完全ですが、平成 19 年版と昭和 60 年版の山道の書き込みは同じです。